



## 医科との連携による適切な歯科診療環境の整備

### —HIV陽性者の歯科診療の一般化を目指して—

研究分担者 宇佐美 雄司

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター 歯科口腔外科 歯科医師

#### 研究要旨

歯科領域担当としてはHIV陽性者が円滑に歯科医療を受けられる社会環境の整備を目指してきた。まず、以前からではあるが、都道府県単位でHIV陽性者のための歯科医療ネットワークの構築を暫定的目標としている。HIV陽性者の受入れ可能な歯科医院を確保し、拠点病院等と連携し歯科医療を提供するためである。ただし、この3年間はコロナ禍のため、従来行ってきたブロック拠点病院の歯科関係者による講習会や歯科医師会などとの協議会の実施は制限された。

次に2018年から行っている全国の都道府県歯科医師会を対象にしたHIV陽性者の歯科医療の体制についての調査も継続して実施した。啓発活動などの制限にもかかわらず、調査結果では「HIV陽性者の歯科医療体制」は改善されてきたと判断できた。同時に調査開始以来、あまり対応が進まぬ特定の地域が一層浮き彫りになってきたのも事実である。今後、それらの地域に対する啓発活動等の介入が課題として残った。

今やHIV陽性者の歯科診療の最大の障害因子は心理的なものと判断している。それらを払拭するために、実際にHIV陽性者を受入れている一般歯科医院の歯科医師の体験談を取り纏め、啓発冊子「HIV陽性者を歯科医師が診るということ」を制作した。2021年度は東京・神奈川編として作成し、歯科医師会の協力のもと全国に配布した。2022年度は全国編を作成し、啓発の継続に努めた。一般の歯科医師の意識改革のために啓発活動を間断なく実施し、「HIV陽性者の歯科診療の一般化」達成に近づくことを期待している。

#### A. 研究目的

歯科領域担当としては、HIV陽性者（本稿ではARTを受け血中ウイルス量がコントロールされているHIV感染者を意味する）が普通に歯科医院で診療を受けられる医療環境の整備が目的と考えている。ただし、まずは現実的かつ暫定的対応として、拠点病院等と医療連携し、HIV陽性者の受入れに対応する歯科医院の確保が必要である。そして、最終的にはHIV陽性者の歯科診療が一般化することが目的と理解している。

#### B. 研究方法

##### 1. 全国のHIV陽性者の歯科診療受入れ体制の状況

都道府県単位でのHIV陽性者の歯科医療体制の状況を調査し、公表する。

##### 2. 歯科医療従事者に対する啓発活動

毎年、ブロック拠点病院の歯科関係者（研究協力者）により、講習会、研修会などの啓発活動が企画されている。また、歯科医師会などの関係者を混じえて、歯科医療体制の整備のために都道府県単位やブロック単位で連絡協議会を行っている。ところで、HIV陽性者の歯科診療を担うにあたり障害となるのは、もはや心理的理由が大きいと考えている。そこで「HIV陽性者の歯科診療の一般化」を広げるためには、それらを払拭するような啓発ツールが必要と考えた。具体的方法として、すでにHIV陽性者の歯科診療を経験している開業歯科医師の体験談を取り纏め、冊子として全国に配布することとした。

### 3. 全国の歯科医療関係者との活動報告会の実施

毎年、ブロック拠点病院の歯科関係者らと活動報告会を行ってきた。以前は対面であったこともあり、認識共有の発信力はきわめて限定的であった。そこでコロナ禍のためもあるが、何より歯科領域における活動の方向性が全国レベルで共有されるようにオンライン配信で行うこととした。さらに、双方方向性により、HIV陽性者の歯科医療に関わっている一般歯科医師などから情報や意見等の収集もすることも考慮した。

### C. 研究成果

#### 1. 全国の HIV 陽性者の歯科診療受入れ体制の状況

HIV陽性者の歯科医療提供としての暫定的対策あるいはセーフティネットとして、拠点病院等と診療連携し、HIV陽性者の歯科治療に対応する歯科医院の確保を現実的目標のひとつとしてきた。具体的方策は、毎年、ブロック拠点病院の歯科関係者が主体となり啓発のための講習会や、都道府県歯科医師会関係者などとの協議会の実施である。そして、進捗

状況の把握のため、2018年からは都道府県歯科医師会に対しHIV陽性者の歯科医療の状況を調査している。なお、回答を明確にするために、各都道府県の状況についてはA～Fの選択肢（表1）から選んでもらっている。ただし、本調査の目的はあくまで「一般の歯科医院の受入れ状況」を調べるためであることから、その主旨に合わない回答は訂正している。2022年度の本調査の結果を表2A、Bに示す。徐々にHIV陽性者の歯科医療の改善が進んでいることがわかる。以前に行った調査の結果を付け加え、図1に全国の状況を経年的に示した。2022年度においては、HIV陽性者の歯科医療に対して何らかの対応している（A,B,C）を選択した都道府県歯科医師会は41地域に達した。ただし、その実態は様々である。例えばBを選択した歯科医療ネットワークがあるという都道府県でも、登録歯科医院数が極端に少ない、もしくは歯科医師会会員数に占める割合が少ないなど問題がないわけではない。さらに、長年に渡り対応状況が「協議中、準備中」に留まっている地域が5県ほど存在することも明白になった。

表1 HIV陽性者の歯科医療の状況についての選択肢

都道府県歯科医師会に調査用紙を郵送し、A～Fから選択してもらっている。  
ただし、本調査の主旨に明らかにそぐわないものは変更した。

選択肢	HIV陽性者の歯科医療の状況
A	全てあるいはほとんどの歯科医院がHIV陽性者の受入れをする
B	特定の歯科医師（医院）等が受入をしている（歯科医療ネットワークの構築など）
C	歯科医師会として紹介や相談に対応している
D	受入れできる歯科医師（医院）確保等のため準備中、協議中である
E	歯科医師会としては対応していない、わからない
F	その他

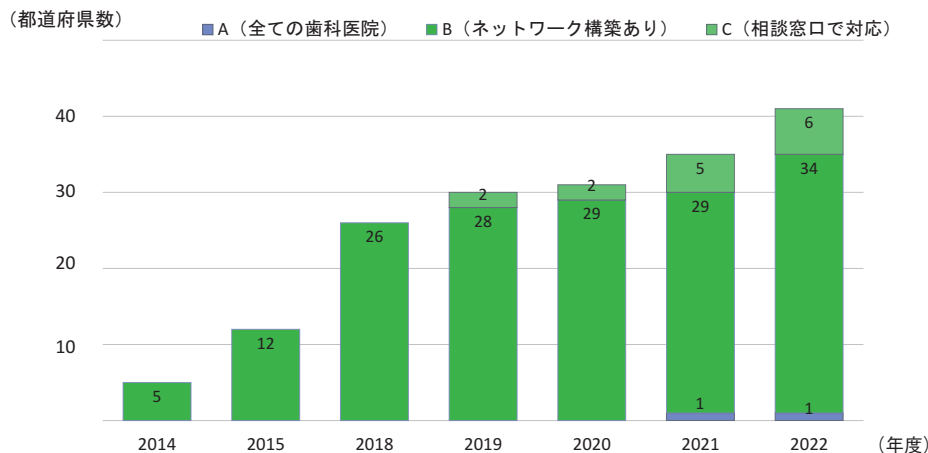


表2A 都道府県ごとの歯科医療体制の状況

（ ）：歯科ネットワークに参加している歯科医院数

ブロック	都道府県	2020年度	2021年度	2022年度
北海道	北海道	B	B	B（44歯科医院、7病院歯科）
東北	宮城	B	B	B（16）
	青森	D	D	D
	岩手	D	C	D
	秋田	D	D	D
	山形	C	C	C
	福島	B	B	B（56）
関東甲信越	新潟	B	B	B（37歯科医院、7病院歯科）
	茨城	B	B	B（21）
	栃木	B	B	B（29）
	群馬	B	B	B（27）
	埼玉	B	B→C	C
	東京	B	B	B（104）
	千葉	B	B	B（40）
	神奈川	B	B	B（47）
	山梨	B	B（25）	B（26）
	長野	D	D	B（89）
北陸	石川	B	B	B（19）
	富山	B	B	B（5）
	福井	B	B	B（5）

注：2021年度の回答にて埼玉県では診療は歯科医師会関係の施設だけのためCとした。

表2B 都道府県ごとの歯科医療体制の状況

( ) : 歯科ネットワークに参加している歯科医院数

ブロック	都道府県	2020年度	2021年度	2022年度
東海	愛知	B	B	B (49)
	静岡	B	B	B (134)
	岐阜	B	B	B (11)
	三重	D	D	D
近畿	大阪	B	B	B (173)
	滋賀	B	B	B (27)
	京都	D	D	B (42)
	兵庫	B	B	B (145)
	奈良	B	B	B (105)
	和歌山	D	D	C
中国四国	広島	B	B	B (159)
	鳥取	D	B	B (37)
	島根	B	B	B (61)
	岡山	E	D	C
	山口	D	D	B (14)
	徳島	C	C	C
	香川	F	F	D
	愛媛	D	D	B (109)
	高知	B	B	B (54)
九州	福岡	B	B	B (151)
	佐賀	B	B	B (6)
	長崎	E	F	C→F
	熊本	D	A	A
	大分	E	D	B (2)
	宮崎	D	C	C
	鹿児島	B	B	B (22)
	沖縄	B	B	B (21)

注：2022年度の長崎県歯科医師会の回答はCであったが、診療は長崎大学病院のみにてFに変更した。

## 2. 歯科医療従事者に対する啓発活動

2020年以降は従来から行われていた講習会や歯科医師会などとの連絡協議会は多くがオンラインとなったものの、おおむね従来取り実施されていた（年度報告書参照）。これらにより、歯科医療ネットワークの構築が進んだと判断した。

啓発ツール作成としては、HIV陽性者の歯科診療を担っている一般歯科医院の歯科医師の体験を取り纏めた。まさに「HIV陽性者の歯科診療が普通であること」を伝えるための内容であり、タイトルを「HIV陽性者を歯科医師が診るということ」として冊子を制作した。2021年度は東京、神奈川編として構成し、全国の歯科医師会員に配布した。さらに啓発効果が中断しないように2022年度は全国編を作成した（図2）。

## 3. 全国の歯科医療関係者との活動報告会の実施

HIV陽性者の歯科医療環境の整備においては、全国均てん化も大切である。以前からブロック拠点病院歯科関係者、HIV陽性者の歯科診療に関係している歯科医療従事者などが集まり、情報共有のための報告会を実施してきた。2020年度はコロナ禍のため、必然的にオンラインでの実施となった。そこで2021年度、2022年度は始めからオンラインでの開催を計画し、あらかじめ、歯科医師会、都道府県行政関係部署などに開催を案内し参加を呼びかけた。

ちなみに2022年度の参加（視聴）登録者数は86名で、歯科医師会関係者および行政関係者はともに10名足らずであり、目的を鑑みれば、参加者数としては不十分であると評価している。

## D. 考察

研究分担者を小生が担う以前からブロック拠点病院の歯科関係者や都道府県歯科医師会による啓発活動がなされてきた。元々、これらの活動を比較的積極に行っている地域においては、HIV陽性者の歯科医療ネットワークの構築も2015年ごろまでになされていたようである。しかしながら、HIV感染者が少ない地域では、歯科治療も中核拠点病院などで終結していることが多いためと、歯科医師会、あるいは行政関係者にさえ歯科医療体制の整備の必要性があまり認識されていなかったようである。当然ながら、そのような地域では啓発活動の介入の機会も少なく、進展もあまりなかったのであろう。そこで、2018年から全国の都道府県歯科医師会を対象に、HIV陽性者の歯科医療に関する取組みを問うてきた。毎年の調査実施は都道府県歯科医師会に対して、HIV陽性者の歯科医療環境の改善は看過できない課題であると印象づけることができたであろう。その甲斐あってか、全国的には改善はみられたのであるが、依然、芳しくない地域もはっきりしてきた。今後は歯科医療に関する活動報告会参加を、行政関係者を含め促してい



図2 「HIV陽性者を歯科医師が診るということ」東京・神奈川編および全国編

くことが適切と考えている。

HIV陽性者が受入れられない事態は歯科医療界のみの問題ではないと認識しているが、以前は歯科医療従事者におけるHIV/AIDSに対する誤解や知識不足は否めなかった。そのため、2015年には歯科医療従事者のためのHIV感染症についてのガイドブックを作成配布し、講習会などを通じて情報を提供してきた。それでも、非論理的とも言える偏見を解消させることは難しいと実感してきた。そこで啓発冊子「HIV陽性者を歯科医師が診るといふこと」を作成した。内容は一般の歯科医師が普通にHIV陽性者の診療をしていることの紹介記事である。まだ、本冊子の啓発効果は不明ではあるが、最近では自主的に普通にHIV陽性者の歯科診療」を担っている歯科医院が増えつつあると感じている。

この3年間は、以前からの啓発活動により歯科医療ネットワークの構築が増えたのみならず、HIV陽性者の一般化が徐々に進みつつあると感じた。しかし、この流れが継続されるためには、歯科医療従事者養成課程での啓発こそが重要である。そして、同時に経皮的曝露発生頻度が少ない歯科診療行為ゆえ、拠点病院等による発生時の支援体制を確実にしていただくことも必須であると考えられた。

## E. 結論

長年の啓発活動やブロックごとの連絡協議会などの開催により、HIV陽性者の歯科医療の環境は徐々に整ってきた。さらにネットワーク構築という暫定的対応から脱して、HIV陽性者の歯科診療の一般化に至る萌芽がみられるようになった。今後はこの方向性がブレずに、HIV感染症に対して正しい理解が浸透するように、歯科医療従事者養成過程への介入も大切であると考えている。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 原著論文・著書

なし

### 2. 口頭発表

- 1) 宇佐美雄司、松井 遥、松浦由佳、荒川美貴子、萩野浩子. ARTを受けているHIV感染者に発生した上顎悪性リンパ腫の1例. 第74回 日本口腔科学会学術集会、2020年4月 新潟 (WEB開催)

- 2) 宮田 勝、高木純一郎、釜本宗史、宇佐美雄司、坂下英明. エイズ北陸ブロック拠点病院におけるHIV診療体制整備の取り組みの現状と問題点-第3報-. 第74回 日本口腔科学会学術集会、2020年4月 新潟 (WEB開催)
- 3) 宇佐美雄司、松井 遥、松浦由佳、荒川美貴子、萩野浩子. エイズ診療拠点病院における歯科衛生士臨床実習による啓発効果. 第74回 国立病院総合医学会、2020年10月 新潟 (WEB開催)
- 4) 中川裕美子、近藤順子、大多和由美、高木律男、岡 慎一、宇佐美雄司. 歯科衛生士養成過程・臨地臨床実習におけるHIV感染症に関する教育についての研究. 第34回日本エイズ学会・学術集会、2020年11月、東京(WEB開催)
- 5) 宇佐美雄司、萩野浩子、太田和由美、中川裕美子、近藤順子、向 真紀、華房里衣、横幕能行. 歯科衛生士啓発のための小冊子作成について 第34回 日本エイズ学会・学術集会、2020年11月、東京 (WEB開催)
- 6) 宇佐美雄司、萩野浩子、横幕能行. HIV陽性者の歯科医療整備に関する7年間の活動について 第35回 日本エイズ学会・学術集会、2021年11月、東京 (WEB開催)
- 7) 荒川美貴子、宇佐美雄司、森下 遥、丸山紗季、萩野浩子. 抗レトロウイルス療法中に生じた口蓋カポジ肉腫の一例、2021年11月、第66回 日口腔外科学会総会・学術大会 千葉 (WEB開催)
- 8) 宇佐美雄司、萩野浩子、成田健吾、上島伸知、小田知生. 国立病院機構における歯科医師卒後研修について 第76回 国立病院総合学会、2022年10月8日、熊本
- 9) 宇佐美雄司、萩野浩子、横幕能行. HIV陽性者の歯科医療体制の現状に関する検討、第36回 日本エイズ学会・学術集会 2022年11月、浜松・WEB開催
- 10) 宇佐美雄司、小田知生. HIV陽性者の歯科治療時に発生した経皮的曝露に関する考察、第32回 日本有病者歯科医療学会・学術大会、2023年3月 軽井沢・WEB開催

## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし